令和４年９月定例会一般質問

通告７

質問　地域公共交通のデマンド化について

答弁　デマンド化の可能性も含めて研究を進めてまいります

６番　松野 美哉子 議員

【質問：松野 美哉子 議員】

６番、松野美哉子でございます。地域公共交通のデマンド化についてお伺いいたします。

９月になり、秋めいて日の入りが早くなり、薄暗くなる時間の運転に慎重になられる方々も多くなるこの頃です。

現在、北海道の交通事故の半数に高齢者が絡んでおり、広く社会の問題にもなっております。高齢者となった親御さんの運転技術の低下を見て、免許返納を勧める御家族の心配を耳にしますが、御本人が免許返納後の交通環境を思い、病院、買い物、趣味の会などの移動を考えると、家族に迷惑をかけることになるので手放せない。

また、徐々に社会活動参加も減り出歩くことが少なくなり、運動能力や認知機能の低下に進む可能性につながり、健康寿命の減少も心配されます。

第７期中標津町総合計画の中では、住みたいまち住み続けたいまちの基本目標に、安心と生きがいを感じるまちづくりとあります。中標津町の高齢化率は今後さらに上がります。介護人材不足の上からも、自立して暮らす高齢者や移動手段弱者のためには、公共交通環境の整備が求められています。

中標津町令和４年の交通対策費として１億 545 万円が計上され、町内の循環バス等が運行されています。しかし、町民の中では町の中を走っているバスには乗客が少なく、空気を運んでいると揶揄されることもあります。この運行効率を上げて良いものにならないものかと、免許返納を考えている高齢者だけではなく、免許を持たない方や子供たちからも聞かされておりました。

このような中、中標津町地域交通活性化協議会の開催費用として 178 万円が予算化され、５月末には関係機関や役場職員、町民の代表により、公共交通の活性化について話し合われたとのことですが、その経過を期待するとともに、持続可能な中標津の公共交

通を実現していただきたいと考えるものです。

令和３年１月にまちづくり町民アンケートの公共交通、バスについての意見一覧にもいろいろな意見が出されておりました。道内の他の市町村でも、地域公共交通確保維持改善事業を進めているところもあり、その内容を見ますと、デマンド化といって、利用者の要望に応じて運行される公共交通のバスやタクシーの導入が報道されており、便利に移動でき、住民にとってドア・ツー・ドアの理想的な交通手段になるのではないかと考えます。

８月 29 日に民放のニュースで、家の近くに呼び出せるバスが地域を救うと、茨城県高萩市、人口２万 6,000 人のデマンドバスの実証運行の様子を報道しておりました。高萩市市長も、空気を運んで年間 3,000 万円の補助金を出していたが、乗車率が 1.3 倍になり免許返納が増えるとさらに上がると考えているとのことで、市民の足として活躍しておりました。市長も希望の持てる事業と話していました。

現在、中標津のバスの利用状況からすると、財源は厳しいと考えますが、ぜひこのデマンド化を研究し、現在組織されている中標津町地域交通活性化協議会のスタッフで先進地を視察して、このオンデマンドを当町に取り入れられる方法や体系を創り出す必要があると考えます。

行政の事業として可能な補助金を掘り起こし、的確な公共交通をテーマに進むべきと考えますが、町長の御見解をお聞かせください。

【答弁：町長】

松野議員御質問の地域公共交通のデマンド化について御答弁申し上げます。

まず、地域公共交通ですが、町民にとって比較的身近な路線として、阿寒バスが運行する市内循環線、そして武佐、俣落、養老牛の３路線を運行する町有バスがあります。そのほかにも近隣の複数自治体と連携した広域路線など、様々な体系となっております。

議員御指摘のとおり、高齢者の事故や免許返納の問題、さらには低い乗車率の問題などは、間違いなく少子高齢化の時代において注視すべき課題であると認識しております。

デマンド交通につきましては、地方の公共交通対策の一つとして、様々な自治体や地域で取り組みが進められており、乗車要求に対して可能な限り即座に応じ、目的地まで輸送する交通手段であります。

本町としましても、道内のデマンドバスの調査研究を進めておりますが、やはりメリットとしては時刻表にとらわれず、バス停などの乗降口まで歩く必要もない、いわばタクシー感覚のようにドア・ツー・ドアで利用できる部分と言えます。

一方、運転手の確保や予約システムの構築と受付オペレーターの確保、また、複数台の車両確保、並びに運行に係る経費の問題があります。さらに乗車要求、デマンドといいますが、これに対しまして要望どおりの運行ができず、お断りするケースや、乗り合い乗車の場合ですと通常よりも目的地までの時間を要する場合もあります。ある地域の成功事例が本町にとって有効な手段として成り立つかどうか、自治体の面積や人口、市街地形成の状況、商店や公共施設等の立地場所など、さまざまなシミュレーションや検討が必要と考えております。

デマンド化の可能性も含めまして、この地域にどのような形が良いのか、引き続き研究を進めてまいりたいと存じます。

現在、中標津町地域公共交通活性化協議会では、バスの運行を抜本的に見直し、利用者にとりまして利便性の向上や実際に乗っていただけるような路線再編に向けて、地域住民の代表や国・道・関係機関の委員の皆様とともに、検討を進めているところであります。

第７期中標津町総合計画でも、人口減少や少子高齢化に対応し、効率的・効果的な地域交通網の確立を目指すことを掲げており、地域の交通事業者やバス会社とも十分協議を行い、地域にとって持続可能な運行体制となるよう、引き続き取り組んでまいりたいと存じますので、御理解を賜りますようお願い申し上げます。